



# 「地域に応援されていることを肌で感じる！」

## ～都立第五商業高等学校

国立市にある都立第五商業高等学校は、地域とのパートナーシップを築き、地域密着型の商業高校を目指しています。第五商業生が国立市富士見台名店街で都立の農業高校生が生産した野菜や草花などを販売する、「五商ショップ」もそのひとつです。

また、昨年度から都立高校において始まった教科「奉仕」にその地域密着型の考え方を活かし、1年生を対象とした「ライフデザイン・社会体験学習」という科目として位置づけ、校内の推進委員会が進めています。今回は、委員会のメンバーでもある担当の藤田先生と隅先生にお話を伺いました。



19年度体験学習の様子(商店会イベントでの補助)

### ■「ライフデザイン・社会体験学習」

#### ～先輩の体験談を聞く

昨年体験学習を行なった1年生の88%が「やってよかった」とアンケートで答えたということです。取材に伺ったこの日は、ちょうど「ライフデザイン・社会体験学習」の第4回目の授業の日。今年度の1年生全員がこの夏の体験学習に向けた事前学習として、3人の2年生の先輩たちから昨年夏の体験報告を聞いていました。



2年生の体験報告を聞き、メモをとる1年生

体育館に集まった1年生を前に、先輩たちは少し緊張気味に体験談を話し始めました。

国立駅前の通りで自転車マナーキャンペーンを体験した柴田さんは「こうして人前で話すのも、街で知らない人に話しかけるのも苦手で、体験前は失敗したらどうしようと思っていた。でも失敗を恐れずに『やればできるじゃん』って、活動先の大人とのコミュニケーションを是非楽しんでほしい」、病院でのボランティア活動を体験した峰岸さんは「年配のボランティアの方々に地域の昔のことなどの話を聞きながらの作業がとても楽しかった。自分にあった活動を慎重に選んでください」、花火大会やクリーン多摩川での体験活動を三国さんは「学校としてチームで派遣されているから遅刻は厳禁です。やる前は嫌々ながらという気持ちもあったけど、現場は思いのほか忙しくて、その忙しさにおもしろやがいを覚えることは間違いなし。やってよかった」と、後輩たちにエールを贈りました。

### ■大人とのコミュニケーション

「これまで進路担当として、企業の人事担当の方々と出会う機会がありました。人事担当の方々と話す中で、『明るく元気』はもちろんのこと、『大人と会話ができる』がいま最も求められている人材なのだと痛感しました」と語るのは、隅先生です。



藤田豊主幹教諭(写真左)前任校の都立多摩高等学校において自由選択科目「社会福祉入門」を創設するなど、高校生のボランティア活動推進に尽力している。第五商業高校3年目。隅仁志教諭(写真右)前任校の都立芝商業高等学校において選択授業の一貫である「模擬株式会社 芝翔」に携わる。地域商店街と連携した活動などの経験から、高校生の地域活動の必要性を感じる。第五商業高校2年目。

また藤田先生は「高校生たちは、話をしたくても、まだできない状態なのだと思います。それでも『ことば』

で自分を伝えないと。そのためにもまずは受け入れられて安心できる場所で大人と関わりながら、自信をつけ、その上で他人への思いやる気持ちを育てて欲しいと思います」と語りました。

「それには、高校生がそもそも大人とコミュニケーション

する場面があまりに少ない」隅先生、藤田先生の共通の問題関心は、いかに高校生がいろいろな大人の生き方と出会う機会を作り出すのか、ということです。

### ■豊富な選択メニュー

その「いろいろな大人の生き方との出会い」は、「ライフデザイン・社会体験学習」における選択可能な体験学習先の豊富さに現れています。

今年度の社会体験学習のコースは約13分野(自然環境・乳児と触れ合う・小学生とあそぼう・園児と触れ合う・清拭布ボラ・地域イベント・高齢者と触れ合う・地域防災・障害者と触れ合う・国際交流・地域との交流・患者さんとの触れ合い・部活動※を通じた地域の方々との交流)、活動先は約25箇所を数えます。

国立市子ども家庭支援センターや保育所、児童館、病院、花火大会、民間の地域活動団体など多岐にわたる活動先は、国立市をはじめとした地域のボランティアセンターや商工会議所などとの、日頃の第五商業の先生方のネットワークから得られています。なかには、「実は地域の高校とつながりたかった」と団体から申し出を受けることもあり、そうした情報も逃さずキャッチしています。



平成19年度社会体験学習「実施の概要」(表紙)と中に記されている「科目のめざすもの」

※バドミントン部:小学生向け講習会、弓道部:中学生向け講習会、女子バレー部:立川ろう学校と交流、茶道部:高齢者や幼児と交流

### ■地域に応援される学校

藤田先生と隅先生が心がけているのは、活動先が単なる体験の受け皿としてだけでなく、学校と地域が共に地域で活動する次の世代を育てるという意識、若者の地域デビューを共に見守るという視点だといいます。第五商業の生徒を地域で育てる、そのためには地域の大人自身も高校生と触れ合いながら次世代の育成者になってほしいとの願いがあります。

こうして地域の人々とのつながりを深め、地域の方々と共に体験学習の機会を作り出すことで「地域に応援されているのを肌で感じる、地域に理解されるということはこういうことなんだ」と藤田先生は語ります。

### ■「生き方」を学ぶ

将来、必ずや社会や地域の一員となる高校生たち。科目の名称にもある「ライフデザイン」は、生徒一人ひとりが自らの生き方を選び取るための学習を意味しています。そのために、地域の大人たちとのつながりを求める藤田先生と隅先生です。